

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

古典を学び「リスク管理」「危機管理」を身に付ける 数土 文夫 (JFEホールディングス名誉顧問)

1. 古来、国家や企業をはじめとするあらゆる組織にとって、「リスク管理」と「危機管理」はその存在に関わる重大事でした。「リスク」と「危機」は同じ意味だと思われている方が多いかもしれませんが、異なっています。「リスク」は近い将来起こり得る危険や異常事態のことで、「危機」は現実^に発生してしま^{った}危険や異常事態のことです。
2. こういう非常時には、先人の多様な事例を学んでいるかどうか、成否の分かれ目になります。何かにつけて「想定外だ」と言う人は、「自分は歴史を学んでいない」と告白しているようなものです。18歳で鎌倉幕府の執権となり、蒙古襲来の危機から日本を救った北条時宗は南宗の禅僧・無学祖元に教えを乞いました。徳川家康は幼少の頃に禅僧・太原雪斎の感化を受けています。
3. 家康に比して、織田信長や豊臣秀吉がその晩年、リスク管理と危機管理に欠けていたのは、師と呼べる人物に恵まれなかったこと、さらには、「貞観政要」などを読んでいなかったことに因るでしょう。10代までの学び、特に古典を中心とした読書が重要なのです。 (参考:「致知」2020年7月号)

経営者のための危機管理

コロナ危機で新電力に倒産危機

1. 電力業界は今、電力小売り全面自由化、という他社と激しく顧客を奪い合う戦国時代にいる。そんな中での通産省からの要請(4月7日、コロナ危機で電気料金の支払いが困難な人に対して支払い猶予するもの)は、新電力に対して究極の選択を迫るものだ。つまり、契約を解除するか、支払いを猶予するかだ。契約を解除はそのまま顧客の流出につながり、敵に塩を送るようなものだ。
2. 一方、支払い猶予すれば自社の資金繰りが悪化する。通産省の要請が新型コロナに端を発した倒産危機の引き金となったことによつて、体力に乏しい新電力がバタバタと倒れれば、大手電力による寡占につながりかねない。電力小売り全面自由化はわずか4年で形骸化することになるかもしれない。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2020年4月25日号)

ワンポイント経営アドバイス

産業構造を変える

(デービット・アトキンソン、小西美術工芸社社長)

1. 「高品質低価格」のものが良い、とされる日本固有の考え方が大きく見直される。コロナは日本経済の産業構造の1番弱いところを攻撃している。つまり、資金の余裕のない規模の小さい事業者だ。高品質はさておき、低価格でものを販売しコストギリギリの経営をしてきた企業は利益も貯金も少ない。
2. 平時に適切な貯金をしてこなかったのだから、有事に国に助けてくれ、というのは本来都合の良い理屈だ。短期戦だと満遍なく企業を守る選択肢もあるが、長期戦では人口減少時代、財政問題を冷静に考えた上で、産業構造を見直すことが欠かせない。政府は企業を無条件で守るのではなく、低生産性経営をやめてもらうという条件を付けることだ。もはや痛みは避けられないのだ。

(参考:「日経ビジネス」2020年5月25日号)

古典に学ぶ

完全なる人格者とは

(解説) さてこの実際と学理の調和ということは、要するに、理論と実際、学問と事業とが互いに並行して発達させないと、国家が真に興隆せぬのである。この両者がよく調和して密着する時が、すなわち国にすれば文明富強となり、人にすれば、完全なる人格ある者となるのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)